

3-5 赤野井湾 視察日：平成30年11月28日（水）

赤野井湾は琵琶湖南湖の北東部に位置し、主に8本の河川が注ぎ込む閉鎖性が強い水域である。



石部頭首工

石部頭首工は、湖南地域の農地に灌漑用水を供給するための施設で、右岸を野洲川土地改良区が管理している。今の頭首工は、平成18年に新設されたもので、水をせき止める堰には日本最大級のゴム引布製起伏堰（通称ゴム堰）を採用している。生物保護にも配慮しており、魚道を3本設置している。魚道はそれぞれ異なった形をしており様々な魚種が遡上しやすいよう配慮している。

当日は、ゴム堰の上流側に多数の魚影を確認することができた。

旭化成株式会社守山製造所

本事業地には湧水地帯があり水が豊富な地であり、操業60年を迎えた。守山製造所では野洲川の伏流水である地下水を汲み上げ工業用水として利用している。その水量は一日約30,000トン。

利用した地下水は場内のピットで水質監視を行い放流している。農繁期には農業用水としても利用され、地域に欠かせない水となっている。排水管理はpH, TOC, 油膜, 濁度, VOC計で監視の他に1日1回は目視でも確認している。

地域社会との共生を目指した生物多様性保全活動として絶滅危惧種であるハリヨの保全をおこなっており、場内に保全池がある。地下水を大量に使用している事業スタイルを環境保全に活かさないかと模索し、専門家から紹介を受けたことがきっかけで始まった。

場内の水路には、オイカワなど11種2000匹以上の魚が生息していることが確認されている。当日は、放流ピットまでの水路に多数の魚を確認することができた。

赤野井湾

南部4市が流域となっている8河川が流入する閉鎖性が高い地域である。湾内様子はハスが全くない状態になっている。また、オオバナミズキンバイの駆除が進んでおり、ほとんどない状態であった。また真珠の養殖も行われているようである。

当日はゴミの漂着は見られなかったが、湾内には河川から流れてきたプラスチック類などが埋まっている。回収を行っているが、全量の回収は難しいと報告があった。

